

NEWS

ものづくり産業支援の
ワンストップサービスを
目指します

第6号
令和3年1月発行



02.8.4「中小企業対象デザイン講座」



02.8.27「サザンガク入居企業ミーティング」

スマートファクトリーに向けた 自動化のステップ

長野県においては、2030年には労働力において10万人規模の人手不足が予測される中、製造業の活性化のための自動化、ロボット導入は県内中小企業にとっても喫緊の課題となってきました。直面するであろう課題に対応するため、長野県では「産業生産性向上のためのAI・IoT、ロボット等利活用戦略」を、松本市では工業ビジョン「産業用ロボット等の高度な産業用機械分野の重点的な推進」を、また塩尻市では第五次塩尻市総合計画中期戦略をそれぞれ策定するなど、各自自治体においても個別に自動化支援に向けた事業の動きが加速しています。

製造業はデジタル技術の活用により、生産性の向上や高付加価値化を図り、世界的な競争力を高めることが求められています。多くの企業へデジタル技術の導入により製造業を支援している講師より、大規模生産から多品種少量に変わった自動化事例や、取り組みのヒントをご紹介します。

令和2年
■日時/ 11/18 水 参加費 無料
15:00~16:30 (14:30入室開始)
■開催方法/Webinar (Webセミナー)
■募集人/ 先着90名 (先着順)
■員 / 令和2年11月16日(月)17時締切
■申込み/ 経営者、管理者、技術者等
社 会 者
当日のスケジュール

時間	内容
14:30~15:00	Webinarへの入室
15:00	Webinar開始
15:00~16:00	(株)FAプロダクツ 代表取締役社長 貴田義和 様 講演
16:00~16:30	申し込み時事前質疑、講演中のチャット質問に対するコメント

講師 (株)FAプロダクツ 代表取締役社長 貴田義和 様

松本ものづくり産業支援センター (TEL 0263-40-1000 FAX 0263-40-1001)
〒270-0292 松本市東区南松本1-1-1 松本ものづくり産業支援センター
TEL 0263-40-1000 FAX 0263-40-1001
E-MAIL info@matsumoto-mfg.jp



02.11.18「スマートファクトリーに向けた自動化のステップ」セミナーから



目次

- 1 ものづくり支援担当活動トピックス 3～7P
 - 杉本 守 アドバイザー
 - 豊口 稔 コーディネーター
 - 広橋 修 コーディネーター
 - 相吉 一浩 コーディネーター
- 2 ICT支援担当から 8～12P
 - 野尻 和彦 コーディネーター
 - 栗林 正好 コーディネーター
 - サザンガク開設1年を迎えて
- 3 支援活動トピックス 13P
- 4 募集！メルマガ会員&研究開発室入居企業 14P
- 5 補助金・講習会・商談会のご案内 15P

ものづくり支援担当活動トピックス

杉本 守 アドバイザー

中南信自動化推進協議会

2019年度下期、中南信地域Sler4社及び当地域支援5団体を中心とした「中南信自動化支援準備研究委員会」を開催し、2020年4月14日に報告を行いました。

本年は、2021年度中南信自動化推進協議会発足に向け設立事務局間で検討した結果、下記2点を基本に推進することとなりました。

①ユーザー側の課題解決に重点を置いた部会とします。

②3部会（導入部会、自立化部会、Sler部会）構成で推進します。

* Sler Robot System Integratorの略

* 中南信自動化推進協議会設立事務局は下記4団体で構成

（公財）長野県テクノ財団アルプスハイランド地域センター
（一財）塩尻市振興公社

（一社）あづみ野産業振興支援センター

（一財）松本ものづくり産業支援センター

中南信自動化推進協議会の枠組み

本協議会では、特にユーザー企業側の課題解決に重点を置き、今後より多くの企業が工場の自動化を進められるべく下記3つの部会構成で事業を行う。

中南信自動化推進協議会

自動化実践部会

導入部会

自動化したいが決断できない企業（3K、人作業代替）に対し、不足している情報（自動化装置、ロボット分野等）の提供、工場の個別分析、個別アドバイスを実施

事業内容

- ・自動化診断
- ・Slerマッチング

自立化部会

自動化を自社で進めたい企業に対し、自社で保守、改良が行えるようUser企業の技術獲得レベルに対応した複数のセミナーによりユーザー企業内の技術者を育成していく。

自動化支援アドバイザー

共通事業内容（Userに合った段階的な支援メニュー）

- ・自動化事例セミナー
- ・社内技術者育成研修（シーケンス制御など）

Sler部会

自社での自動化装置開発経験を活かし、Sler事業を興したい企業に対し、同業他社での外販方法を学び、Slerへの転換を図る。

事業内容

- ・多品種少量自動生産の研究
- ・先端技術研修
- ・Slerネットワーク構築

事務局活動

- ・協議会運営
- ・協議会広報活動
- ・運用資金獲得、補助金申請支援

今後、生産ラインの自動化・RB導入を検討しているモノづくり企業様は当協議会加入を是非ご検討ください。

ご一報くだされば、協議会内容等説明に伺います。

「スマートファクトリーに向けた自動化のステップ」Webセミナー

- 開催日時：2020年11月18日（水）15:00～16:30
- 講演者：（株）FAプロダクツ代表取締役社長 貴田義和氏
- 主催：松本地域産学官連絡会 ■ 共催：中南信自動化推進協議会設立事務局
- 出席者（講演者、事務局含む）：50名

デジタルツインとは構想・設計したラインの実装前にシミュレーションソフトで効果を検証することによって、最適な製造環境を実現するための試行錯誤に要する費用・期間を大幅に圧縮できるというものです。シミュレーションの検証をもとに詳細設計を実施して、実工場の構築に移ります。ランドデザインと全体最適達成のために、最適な設備や機器を選定・発注します。

デジタルツイン実現による生産性向上の事例として、リーマンショック時にそれまでの大量生産から受注数が減少し、多品種小ロット化が進み機械の段取り回数が増加した企業がスマートファクトリー化を行った事例が紹介されました。

また、リアルとバーチャルが融合した本質的なDXソリューションを唯一体感できる場として、展示場「スマラボ東京」（千代田区内幸町1-1-6NTT日比谷ビルB1F FAプロダクツ内）が紹介されました。スマラボ東京にご興味がある方は、ご紹介致しますので当センターまでご一報ください。

豊口 稔 コーディネーター

食料品製造業の重点的な推進について

●販路開拓・拡大支援

新型コロナ禍、リアル展示会が延期・中止となり、オンラインによる商談の機会が増えてきております。相手と直接顔を合わせることができないオンライン商談を成功に導くポイントについて簡単にまとめてみました。ご参考にしていただければ幸いです。

- I 相手先について、ホームページなどで情報を得るだけでなく、実際に店舗などを確認しておきましょう。
- II 商談の構成は、起承転結で手短かにテンポよく。
 - （起）自己紹介、会社説明（立地、環境、品質管理体制など）
 - （承）商品紹介（コンセプト、ターゲット層、調理方法、食シーンなど）
 - （転）質疑交渉（相手から商品に関する評価を聞き出す）
 - （結）クロージング（商談の振り返りと課題の確認。次回の商談日程の約束）

●食品営業届出制度の創設（令和3年6月1日施行）

平成30年6月の食品衛生法の一部改正により、令和3年6月1日から、新たな許可制度の導入や届出制度の創設がされる他、HACCPによる衛生管理が義務化されます。改正の概要は以下のとおりです。

- （1）食品営業許可制度の見直し（令和3年6月から）
- （2）食品営業届出制度の創設（令和3年6月から）

(3) HACCPに沿った衛生管理の制度化（令和3年6月完全施行）
 (4) 食品リコール情報の報告制度の創設
 なお届出業種の概要は以下のとおりです。ご確認のほどお願いいたします。

★食品営業届出制度の創設（令和3年6月1日から）

許可営業者と届出の対象外となる営業業者以外のすべてが届出の対象となります。

(1) 届出対象外の業種

届出の対象外となる業種	
①食品・添加物の輸入業	④合成樹脂以外の器具・容器包装の製造業
②食品・添加物の貯蔵・運搬業 （冷凍・冷蔵の倉庫業は届出対象だが、冷凍・冷蔵車は対象外）	⑤器具・容器包装の輸入・販売業
③常温包装食品の販売業（カップ麺、スナック菓子等）	

(2) 届出対象となる業種の例

主な製造・加工業	主な販売業	主な調理業
海藻加工業（のり、寒天など）、農産保存食料品製造業（切干大根、干し芋、市田柿など）、蜂蜜の精製、その他の調味料製造業、精米・精麦業、小麦粉製造業、製茶業、消費の利便性のための調理・切断（茹で野菜、カット野菜）、白餅製造など	乳類販売業、食肉販売業（包装）、魚介類販売業（包装）、冰雪販売業、野菜果物販売業（農業者を含まない。）、弁当等販売業、卵販売（養鶏業者が洗卵せずに販売する場合は含まない。）など	集団給食施設 自動販売機 コップ式自動販売機（屋内設置）、水の量り売り自動販売機
器具・容器包装	その他	
合成樹脂の器具・容器包装の製造	洗卵・卵選別包装業（GPセンター）、冷凍及び冷蔵倉庫業（運送業を含まず）など	

広橋 修 コーディネーター

まつもと5Sプロジェクト（松本商工会議所共催）

本プロジェクトは本年度で5年目を迎えました。
 当初から県登録専門家の平井勝則氏のご指導により推進してきました。

5Sの自走力がつき支援を完了した事業所が7社あり、現在は10を下回る事業所支援となっています。

その中で、昨年末から本年度にかけて3つの事業所が新規参画され、まずは「整理」「整頓」「清掃」活動の向上に取り組めます。

5Sは個人・会社の「基盤強化活動」であり、最終目的は利益を稼ぎ出すことにあります。

多くの事業所の本プロジェクト参加を募集しています。



第4期 次世代現場リーダー研究会（松本機械金属工業会主催）

本年度で4期目となる次世代現場リーダー研究会は、コロナ感染症のため半年遅れの9月スタートになりました。

例年の半分の受講生(5社、5名)を迎え、月1回のペースで参加各社を巡り、4月まで開催されます。

開催企業の工場見学は例年通りですが、今回から新しい方式でのグループディスカッションを行っています。

また、受講者からのアンケートをもとにスキルアップセミナーの講義内容を決め、全3回の予定で実施します。

今回は受講者が少ないこともあり、受講者同士の強い繋がりが出来そうです。研究会終了後も交流の継続による相互研鑽を期待しています。



相吉 一浩 コーディネーター

《最近の取組み事例の紹介》

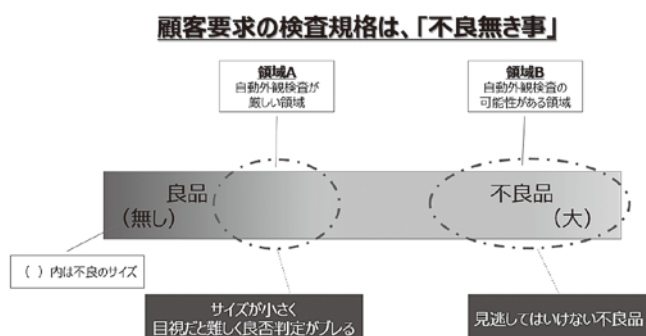
人目による外観検査の自動化検討支援

●金属部品加工「O社」で行っている、加工部品の出荷前外観検査について調査

右図に示すように、領域Bに対しての自動化検討は比較的に簡単に行えるが、「O社」含め多くの会社は判定難易度の高い領域Aに対してもきちんと判定出来るレベルの自動化が、当然要求されます。

そこで問題となるのは2点。

- a) 領域Aの判定は、そもそも人目の判定が大きくバラつくので、画像処理装置での判定基準が決め難いこと
- b) 金属部品は部品表面の反射が強いため、照明の当て方、光量等、調整が難しいこと



したがって、今回の支援では領域Aの人目の判断基準を数値化出来ないか？を「O社」にて検討いただくと同時に、支援側として金属部品の外観検査に最適な光学系の調査について、光学メーカー、画像処理専門メーカーと協業して現在も進めています。

また、画像処理した結果については、最近のトレンドであるAI技術も視野に入れて、簡単に行える仕組みも継続検討を進めています。

装置稼働管理システム導入の検討支援

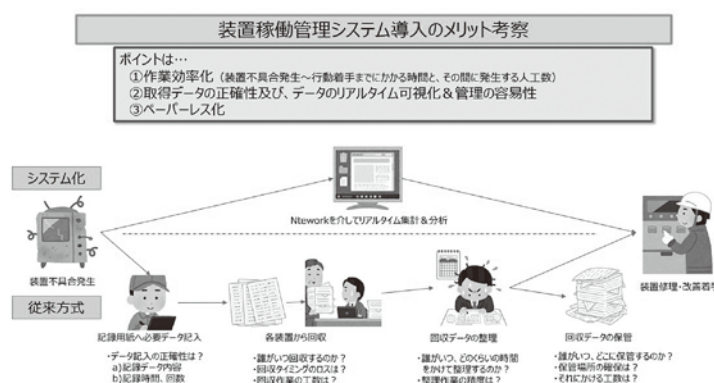
●食品関係「S社」への導入検討を実施

何かしらIoT化を進めて行きたいというところからスタートした支援であるが、話を進めていくと、機械設備を多く扱っているが稼働率が思わしくないの、機械設備の稼働を管理出来るシステム化をまずは開始したい、ということで検討が始まりました。

そうはいつても、システムを構築するとそれなりの金額になるために、何が課題で、何をしたい、それによってどんなメリットが得られそうなのか？について、何度も議論を重ね、下に示す図のような整理を行いました。その上で、同種のシステムを5社比較し、コストパフォーマンスが最良のものの紹介を行いました。

このシステム化で機械設備に対しては、“事後保全”を素早く回せる仕組みが出来上がり、その先には、このシステム上に機械設備からのセンシング機能を付加することで、“予知・予防保全”へ進めることが可能となり、機械設備のダウンタイムを極小化出来ることをご理解いただきました。

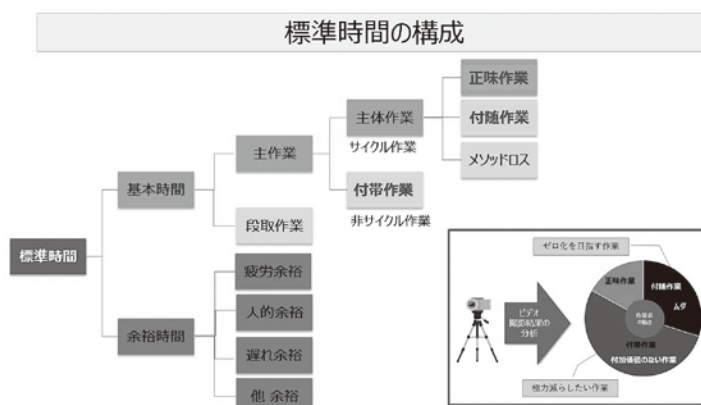
未だ導入には至りませんが、継続的に支援を行っていきます。



生産性向上の検討支援

●食品関係「S社」における人による生産ラインでの検討を実施

現状の生産ラインのどこにムダがあるか？を現場観察させていただき、拾い出しを実施しました。そして、右図に示すように、実際の作業内容を分解し、問題点を把握した上で、「ゼロ化を目指す作業」「極力減らしたい作業」に着目して、改善策を提案させていただきました。実際に想定通りの効果が出るのか？今後定期的に支援をする中で、確認を進めていく予定です。



野尻 和彦 コーディネーター

出前講座「Excelにおけるマクロ/VBAのプログラミング講習」

当センターのHPを見て、社員の月次処理において、VBAを使って自動化・省力化を図りたいと志水達也税理士事務所より連絡がありました。事務所から顧客へExcelファイルを送付し、日々の会計データを入力後返送してもらっていますが、そのExcelファイルの加工（伝票の集積・集計とCSV化）を手作業で行っています。VBAにより自動化・省力化すると共に、VBAの知識を身に付け将来的に、自分でMacro（VBA プログラミング）をして、他の業務に応用していきたい、という目標をお持ちでした。

手作りテキストと、市販の書籍を用いて説明し、受講者は、自分のPCを持ち込んで、テキストに従い実習しました。

基本的な操作、マクロとVBAの違い、マクロの文法、開発環境であるVBE（Visual Basic Editor）を使ったマクロの書き方・編集の仕方など説明しました。

受講者はこれまでに、マクロのつくり方・操作の仕方を何らかの形で経験したことがあるようで、質問の内容からも、受講により技術レベルが深まったものと思われます。また、業務をマクロ化するにあたり、手順の整理や漏れをなくすために、フローチャートを利用することを推奨し、フローチャートの書き方の概要も説明しました。

第2回、第3回は、より実践的なVBAの書き方を中心に説明を行いました。業務手順に合わせたのフローチャートの書き方、変数や定数の定義、操作をマクロとして記録させる方法、マクロの編集の仕方、繰り返しや条件分岐の書き方、など発展的なプログラミングの方法を習得し、最終日には、現在、操作手順のマクロへの記録で行っている部分を、VBAのプログラミングでより効率的に行うことができるよう、ロジックの見直しを行いました。また、最後に、VBAで複数のマクロを順序だてて処理する記述を行い、ボタンやメニューへの組み込みができるように説明を行いました。

およそ1か月後お電話にて確認したところ、担当者ご自身がVBAのプログラムを自分でカスタマイズして、より効率よく実行できるようになった、大変勉強になったと感想をいただきました。

サザンガク 設立1周年記念 セミナー

第1弾

コロナ禍の波を
「リモートワーク」で
乗りきろう！

～「リモートワーク」実践に向けたヒント～

講師 ■ クオリティソフト株式会社 野村 康夫 氏
■ 川越印刷株式会社 小林 雅範 社長

野村氏の講演では、統計的な数字から見る現状→クオリティソフトとしての取り組みの経緯→リモートワークの進め方やツールの利用



などという順で、説明が行われました。テレビ会議をつなぎっぱなしにすること、文字ベースのチャットと併用すること、テレビ会議弱者を作らないように工夫することなど、改めて気づかされた点がありました。

また、社員の労働時間をどう管理するかということ、入社間もない人のケアや正社員以外への対応も必要になることなど、課題も提起されました。

小林社長からの体験談では、社員との間でコミュニケーションをとり問題意識を共有すること、まずやってみて問題点があれば次の機会に改善すること、補助金をうけたり社労士からの指導をうけたりと、公的な支援を受けることで、実施しやすい環境を作るなど、中小企業の立場からの工夫が大切であると提起されました。

第2弾

「先端技術セミナー」

～ものづくり企業のための
AI技術の基礎と応用～

講師

■ (株)BLUEM 取締役・

慶應義塾先端科学技術研究センター特任研究員

松森 匠哉 氏

■ 慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程1年

川崎 陽祐 氏



前半は、松森氏より、AI、機械学習、深層学習（ディープラーニング）の概念や違いについて、学問的な見地から説明がありました。機械学習の三要素は、「どんな問題を解くのか？（タスク）」「どのように解くのか？（学習）」「何が解くのか？（モデル）」であり、かつては、学習させるためには、ルールをあらかじめ人間が抽出することが必要でしたが、AIが自ら特徴を抽出して学習できるようになってきました。また、モデル（頭脳にあたるもの）が計算能力を向上させることにより人間の頭脳に相当する複雑なニューラルネットワークを構築できるようになり、実用化を推し進める結果となりました。

精度を上げるためには、課題解決に合わせて、大量に質の良いデータを集めることが大切となります。

後半は、川崎氏より、生産性の向上のためにAIをどのように応用するのか、という観点から、実例を含めて説明がありました。生産計画の自動立案などを通じての生産性向上のみならず、熟練者の判別能力の継承の点からも非常に期待されています。さらに、AIは単なる道具として使われるのではなく、エージェントとして人との協働を果たしていくものに進化していくものと思われます。

受講者は30名の参加があり、注目されているテーマであることが認識できました。少々難易度が高いと思われましたが、受講後のアンケートによれば講座の内容に対しても満足度が高かったため、今後テーマを発展させて、継続的なセミナーとして検討していきたいと思います。

栗林 正好 コーディネーター

中小企業 デジタル化推進のための情報提供・技術支援を行っています。

お気軽に当センターにお声がけ、ご相談ください。

1 コロナ禍の中各種制度や事業がスタートしており、それらを活用してものづくり 中小企業のデジタル化、ICT活用をお手伝いいたします。

新たにスタートした中小企業デジタル化応援隊事業に関しても各企業でご活用いただけるように各機関と連携してご案内、ご提案の体制を整え10月からはじまった長野県IT・デジタル化補助金に関してもお手伝い、ご案内の対応もしております。

現在、各企業を訪問させていただき、お話を伺いながら、タイミングでご活用いただける制度や事業等々も含めて各種ご相談承ります。企業の皆様もお気軽に当センターまでご相談ください。

2 RPA活用やAI、IoT 等、活用等の情報提供、技術コーディネート

上記、IT、ICT技術のものづくり企業での活用に関して情報提供、技術支援、コーディネートを行っております。

県内、各種機関、及び企業とも連携し情報交換を行い、コロナ禍においてもものづくり企業でこれらのテクノロジーを活用して、この事態を乗り越えるためのお手伝いもさせていただきます。

現在、公益財団法人長野県中小企業振興センター AI・IoT 等先端技術利活用支援拠点、長野県工業技術総合センターをはじめ、県内機関、企業を中心に連携を強化しており、ワンストップで対応できるように進めております。

3 IT機器、ICTに関するご相談を承っております。

ICTって何？ということから、ものづくりの現場でICTを活用するとどんないいことがあるのかということなど、パソコン等の活用でお困りのことがあれば、お気軽にお声がけください。

「IT出前講座」を希望する企業へ講師が出向いて実施しております。本年度は2件実施しております。

IT講座費用は基本的に無料です。ご希望のテーマ等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

開設1年を迎えて

一般財団法人松本ものづくり産業支援センター理事長 嵯峨 宏一

サザンガクは令和2年11月で開設1年を迎えました。

さまざまな職種、年代、性別の方々が集い、交わることによって、サザンガク発の新たなアイデア、ビジネス、イノベーションの発現を目指し、令和元年11月にサザンガクは誕生しました。しかし、3月以降はコロナ禍の影響により、全てのイベント、セミナーが中止、延期となるなど、「何もできない」状況に悩む日々が続きました。

その後、年度が変わり、「何もできない」を改め「何ができるか」を検討した結果、オンラインを主とするセミナーや動画配信などの情報発信をたて続けに実施しました。それと並行し、長野県との連携による「信州スタートアップステーション（SSS）」や「よろず支援拠点松本サザンガクサテライト」の設置など、起業検討から事業承継まで、さまざまなフェーズにおける企業、事業主の皆さまの支援拠点としての機能を強化し、多くの皆さまへの認知を高めてまいりました。

その結果、コワーキングのドロップイン（一時利用）や定期利用会員の増加傾向が続き、さらに、ワーケーションによる利用も目立ってきました。また、毎月のように開催しているオンラインセミナーには、コロナ禍以前よりも多くの方にご参加いただいております。

一方、コワーキングに併設するサテライトオフィスは現在満室、また、テレワークオフィスで働く子育て世代の女性を中心とするテレワーカーも、登録者累計が70名を超えました。

今後も、関係機関の皆さまのご支援、ご協力をいただきながら、期待に応えるべくスタッフ一同努力してまいります。引き続き、サザンガクを温かく見守りいただきますようお願い申し上げます。

利用者の声

コワーキングスペース

佐藤企画・佐藤英太

WEBサイトへ掲載する原稿のライティングや編集、WEBサイト制作のディレクションをしています。私は今年の夏に松本へ移住し、仕事をしながら松本の方と交流できる空間を探していました。市内のコワーキングスペースをいくつか利用し、地域の事業者さまとの交流が期待できそうだと感じたのがサザンガクでした。

オンラインの仕事もスムーズに取り組めて、打合わせも専用スペースを使えるため周囲の利用者への配慮ができ助かっています。交流という点では、私の仕事と相性の良さそうな方をご紹介くださるためとても心強いです。引き続き利用するなかで地域の方々と交流し、松本地域の産業振興に微力ながら力添えをできればと考えています。



コワーキングスペース・佐藤氏

テレワークオフィス

サザンガクテレワークオフィス
ディレクター・萩原かほり

娘が入園すると、一人の時間が出来ました。働きたい。しかし、典型的なワンオペ育児中で、踏み出せずにいました。そんな時、テレワークオフィスのことを知り、思い切って応募したことがサザンガクにお世話になるきっかけです。

ワーカーとして働き出すと、子育て中の方が多く、子どもの急な病気・長期休暇への理解があり安心して働くことが出来ました。

現在はディレクターをしています。お声がけいただいたときは、無理だと思いましたが、フルタイム勤務が出来ない私がキャリアを積める可能性を見だし、挑戦してみることに。1年が経過しましたが、皆様の協力のもと業務を行っています。まだまだ未熟ですが、テレワークオフィスが様々な事情でフルタイム勤務が難しい方の活躍の場となるよう、私自身も成長していきたいです。



テレワークオフィス・萩原ディレクター（中央）

サテライトオフィス

ツカサ工業株式会社 ICT事業部部長／WEBディレクター・小林優太

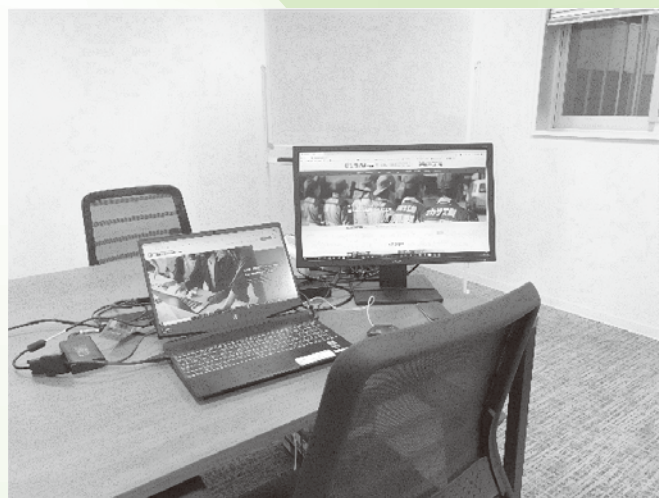
7月から入居しております、ツカサ工業です。長野県大町市に本社を持つ、車両整備を専門とする会社で、普通乗用車だけでなく、大型トラックや建設機械、特殊車両まで、あらゆる車種の車検・整備・検査を行っております。

昨今、100年に1度の大変革期といわれる自動車業界において、業界内外のICT化推進を目的に、ICT事業部を設置。松本市内でオフィスを探していたところ、サザンガクの理念に共感し、入居することになりました。

感想としましては、施設も大変綺麗ですし、必要な設備は全て揃っていますので、仕事をする上で何一つ困ることはありません。

また、同居する企業様から、お仕事のお話を頂戴したり、テレワークオフィスを活用して、お仕事のご依頼をさせていただくなど、非常にメリットを感じております。

将来的には、同居する企業様と一緒に、何か新しいサービスができれば面白いなと思っています。



ツカサ工業㈱オフィス風景

支援活動トピックス

「次世代の工業界の担い手育成に」松本工業高等学校に工具贈呈

松本地域の工業団体やものづくりの工業団体で構成される「松本地域工業高校支援連絡会」は7月29日、次世代の工業界の担い手育成を目的に、長野県立松本工業高等学校へ、金属加工などに用いる工具等（マシンバイス、スクロールチャック、ゲージブロック1級、正面フライス、アーバー、総額60万円相当）を寄贈しました。

学校からの支援要請に基づく機械類や工具で、昨年に引き続き今回10回目の寄贈となりました。支援連絡会では、地域のものづくりが一層発展するようお願い、高校生のうちに力を養い、地元で活躍できるよう松本地域の工業高校の支援に今後も継続的に取り組んでまいります。



戸田理事長から青柳校長へ目録贈呈



贈呈工具を前に校長、贈呈者、生徒代表

贈呈団体

- 松本臨空工業団地管理組合
- 松本市大久保工場公園団地管理組合
- 松本機械金属工業会
- 松本商工会議所ものづくり工業部会

「ギター生産日本一 松本」JR松本駅東西自由通路にギターを展示

「ギター生産日本一 松本」を掲げ、4期目となる今年も8月からフジゲン株式会社、株式会社ディバイザー、モーリス楽器製造株式会社、スギ・ミュージカル・インストゥルメンツ有限会社の4社が、2ヶ月単位のリレー方式で展示をしています。東に美ヶ原、西に日本アルプスを望む松本は寒暖差が大きく乾燥した気候で、古くから家具などの木工産業が盛んなこの風土が育てた木工技術がギター生産の基礎となっています。

現在日本で生産されるギターの約60%は、長野県で生産されており、その主要メーカーが松本に集積しています。松本駅へお立ち寄りの際は、松本駅東西自由通路展示スペースのギターを是非ご覧ください。



2020. 8月～ フジゲン株式会社 展示



2020. 10月～ 株式会社ディバイザー 展示

募集！ メルマガ会員& 研究開発室入居企業

メルマガジンの 受信希望企業を募集します

松本ものづくり産業支援センターでは、地域製造業の皆様へ産業支援に関わる各種情報を配信する「メルマガジン」を運営しております。

インターネットを通じた情報発信・収集が主流となった今日、必要な情報を得るためには大量の情報データから探し出す必要があります。

当「メルマガジン」では、国・県・市や大学、産業支援機関から発信される各種情報を整理し、E-mailにより直接企業の担当者の方へ配信いたします。

どうぞ、ご活用ください。

配信する情報の一例

- 国や県の補助金等の公募情報
- 市や商工会議所の支援メニュー、補助金等の情報
- 人材育成に関する研修会・講習会等の情報
- 講演会、イベント等の情報
- 展示会等の開催情報



◆「メルマガジン」配信のお申し込みは、次の内容をE-mailにてご連絡ください。

「事業所名・住所・役職・氏名・E-mail・TEL・FAX」

◆宛先E-mail: info@m-isc.jp へ

◆お問い合わせ: 松本ものづくり産業支援センター (ICT担当: 野尻)

TEL:0263-40-1000 FAX:0263-40-1001

※いただいたE-mailアドレスの他、個人情報、本メルマガジンの配信及び松本ものづくり産業支援センターからの連絡にのみ使用し、他の用途では使用いたしません。

研究開発室 (インキュベータ室) の 入居企業を募集します

ICT関連事業を行う中小企業等の育成支援を目的に、研究開発環境 (インキュベータ室) の提供を行っています。ソフトウェア産業、ICTに関連する事業者で、起業を目指す方、既に起業しより良い事業環境や成長支援をお求めの方など、入居をご検討ください。



■所在地: 松本市和田4010-27

■入居募集数: 1室 (1部屋 50㎡)

■使用料: 1,540円/㎡ (50㎡の場合、税込みで月額77,000円)

※共益費 (月5,000円) を負担していただくほか、光熱水費は実費となります。

■基本設備: 空調完備、床はフリーアクセスとなっています。また、構内LANは、Bフレッツを利用してインターネットと接続しています。(利用無料)

※1室あたり、無料で、5台の駐車スペースを利用可能です。

■付帯設備: 共同開発室、商談ルーム、休憩室、リフレッシュルーム など

■入居資格: 長野県内で、ソフトウェア・ICT及びこれに関連する事業を営む個人または法人で、中小企業基本法の定義に基づく中小企業者

※詳細についてはお問い合わせください。

補助金・講習会・商談会のご案内

小規模事業者持続化補助金（一般型、令和2年度第4回）

本補助金事業は、持続的な経営に向けた経営計画に基づく、小規模事業者等の地道な販路開拓等の取組や、あわせて行う業務効率化の取組を支援するため、それに要する経費の一部を補助するものです。計画書の作成に際しては、商工会議所の経営指導員等が支援をしています。

- 補助金額／上限50万円（2/3補助）
- 補助対象者／商工会議所の管轄地域内で事業を営んでいる「小規模事業者」等
- 対象事業／「経営計画」に基づき、商工会議所の支援を受けながら実施する、地道な販路開拓等（生産性向上）、或いは販路開拓等の取組とあわせて行う業務効率化（生産性向上）のための取組。
- 受付締切日／2021年2月5日（金）当日消印有効

中南信 自慢の逸品 発掘・売込逆商談会（8回目）

長野県中南信エリアの商工団体が主催し、中小企業食品製造業（売り手企業）の販路拡大を目的に、新たな商品発掘を望む小売業、卸売業、飲食業、ホテル・旅館業等（買い手企業）とのビジネスマッチングを支援する商談会を開催します。今回はコロナ感染症対策を十分に実施し、完全予約制で開催します。

- 開催日／2021年1月19日（火）13時～16時
- 会場／松本商工会館 6階会議室
- 参加数／買い手企業14社、売り手企業46社、合計60社（予定）
- ※参加募集は既に締め切っております。



新入社員教育講座

2021年度、新入社員を迎える事業所の皆様へ！

- 日時／2021年3月24日（水）、25日（木）、26日（金）（予定）
- 場所／松本市勤労者福祉センター
- その他／詳細は、決まり次第、松本商工会議所ホームページにてご案内いたします。

〈以上お問合せ〉 | 松本商工会議所 中小企業振興部 TEL.32-5350 <https://www.mcci.jp/>

兵庫・神戸アライアンス商談会 ―Online―

業種や事業規模を問わず、あらゆるビジネスマッチングが可能な事前調整型の商談会です。商談会サイトから参加申込後、専用サイトでエントリー企業リストを公開、商談を希望する相手先の調査を行い、相手先が受け入れれば商談をしていただきます。

- 参加資格／神戸商工会議所及び兵庫県内の商工会議所・福井・金沢・富山・松江・出雲・平田・松本の各商工会議所の会員企業
- 参加／参加無料、業種・事業規模不問
- 商談期間／2021年2月12日（金）～26日（金）
- エントリー締切日／2020年12月25日（金）
- お申込サイト／<https://www.kobe-cci.or.jp/alliance-online>

〈お問合せ〉 | 神戸商工会議所 経営支援センター TEL.078-367-2010 E-mail matching@kobe-cci.or.jp

関係機関 (市外局番0263)

松本市 商工観光部 商工課 工業振興担当 / 健康産業推進課

TEL.34-3270 FAX.34-3008

TEL.34-3296 FAX.34-3297

松本市 農政部 農政課 マーケティング担当

TEL.34-3221 FAX.36-6217

松本商工会議所 中小企業振興部ものづくり支援グループ

TEL.32-5350 FAX.32-1482

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構

TEL.37-2091・3527 FAX.37-3049

(公財) 長野県テクノ財団 アルプスハイランド地域センター

TEL.40-1780 FAX.47-3380 (長野県松本合同庁舎内)

(一財) 松本ものづくり産業支援センター (松本市情報創造館庁舎 1F)



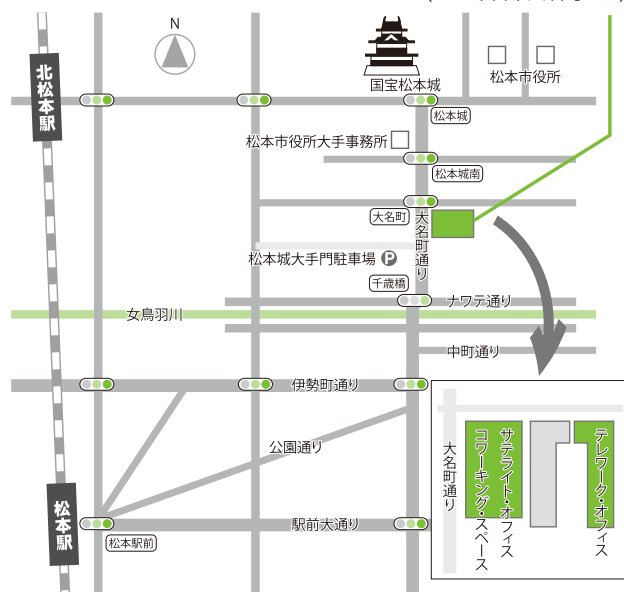
一般財団法人

松本ものづくり産業支援センター

〒390-1242 長野県松本市和田4010-27
TEL.0263-40-1000 FAX.0263-40-1001
ホームページ <https://www.m-isc.jp/>

□ テレワークオフィスWADA

サザンガク (NTT東日本大名町ビル)



サザンガク

matsumoto collaboration space

〒390-0874 長野県松本市大手3-3-9
TEL.0263-33-0339
ホームページ <https://33gaku.jp>

□ テレワークオフィス
□ コワーキングスペース
□ サテライトオフィス